

自己評価結果公表シート(令和4年度)

学校法人東粉浜幼稚園

1. 本園の教育目標

本園では、めざす子ども像として「いつも健康でがんばる子ども」「自分から進んでする子ども」「あたたかい心でみんなと力を合わせる子ども」を設定し、子ども達の「おもいやりの心と活動する意欲」を育てることを目標にしている。

2. 本年度重点的に取り組む具体的な目標と計画

全教職員が本園の建学の精神と71年に及ぶ歴史と伝統に立ち返り、新教育要領の内容理解を真摯に受け止め、日々の保育の具体化を図っていくことは極めて重要である。そこで、全教職員の共通理解の場を持ち、目標達成のための具体的な方策・計画を設定することにした。

3. 評価項目の達成及びそのための取り組み計画

評価項目	成果と今後の課題
幼稚園教育要領をふまえ、園児の実態に即した本園の指導計画を作成する。 (A)	<ol style="list-style-type: none">1. 年度末の反省と改善点をふまえ、各歳児の指導計画を作成し、見通しをもったきめ細やかな保育をすることができた。昨年のコロナ感染時の教育の教訓を日々の保育に生かすよう心がけた。2. 指導計画を基に日案を各担任が作成し、日々の記録を残し、反省点を明確にすることができた。3. 園長・主任・副主任が計画案を点検し、指導・助言を行った結果、学年内・異学年と連携が密になってきた。
安全管理・安全指導の充実を図る。 (B)	<ol style="list-style-type: none">1. 徒歩通園の安全については、担当教諭、当番保護者との連携強化等、特段の配慮をしたが、コロナ感染拡大のため、実施したりストップしたりの変則的な実施となった。2. メール配信システムの有効活用により、園から各家庭への発信をより早く行い、周知・徹底するように努めた。3. 地震・津波の発生等、災害時における子どもの安全確保のための訓練を計画的に行い、安全に避難できるように指導してきた。他国からの弾道ミサイル発射時の対応についても訓練する必要があるが、今年度は実施できなかった。
子ども理解に努める。	<ol style="list-style-type: none">1. 各学期ごとに子ども理解研修会を行い、全教職員で子ども理解に努めるとともに課題を共有するとともに、顔となまえが一致するように努めた。2. 引継ぎがスムーズに行われるように、個人情報の保護を視野に入れ、引継ぎ簿の充実を図るようにした。

<p style="text-align: right;">(B)</p>	<p>3. 個々の育ちを大切にした全員の個別の指導計画を作成し実践を図るとともに、点検・反省の場を定期的に行うようにした。本年度もまたコロナ感染予防対策を考え保護者懇談の場を模索してきた。</p> <p>4. 執行理事(発育・発達カウンセラー)を中心とした教育相談の充実を図り、幼稚園・家庭とが共通理解のうえに子ども理解に努めてきた。幼児発達検査も保護者の協力もえられ3年間の発達の様子がよく分かるようになった。</p>
<p>教職員研修の充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">(A)</p>	<p>1. 園の課題を明確にし、課題解決を図る実践研究を各学級、ポジションにおいて積み上げていった。</p> <p>2. 長期休業中等には、教職員自らが研修内容を主体的に選択し、進んで受講できるように、園外研修の充実に努め、周りの教職員へ広める機会をつくった</p> <p>3. 自主的な学年別研修課題を設定し、研究発表の機会を設け有意義な研修の場を持つことができた。</p> <p>4. 今年はオンライン研修を受講する教職員も増え、意欲の高まりが見られた。</p>
<p>質の高い保育の提供と国際的な視野に立つ保育の実施に努める。</p> <p style="text-align: right;">(B)</p>	<p>1. 感性を育む描画造形、音楽教育には、従来通り、専門講師を招聘し、担任も指導技術を磨く場となり、互いの緊張感が見られる有効な場となった。</p> <p>2. グローバル化・国際化の時代を鑑み、外国の人、文化に親しみを持てるように、三歳児より英語指導に取り組んできた。この時間を楽しみにする子どもも増えてきた。</p> <p>3. 子どもたちが身につけた力を生活発表会などで発揮できるよう環境・場づくりを工夫してきた。運動会・作品展・生活発表会は分散型の発表の場となったが、本年度は保護者参観のもと実施することができた。</p>
<p>地域交流の活性化に努める。</p> <p style="text-align: right;">(B)</p>	<p>1. 地域主催の体験イベントへの保護者・子どもの積極的な参加を促す。大人のしかけであっても大阪公立大学有志による科学遊び、地域連合会・PTA主催の雪まつりへの参加をとおして楽しい交流が図られた。</p> <p>2. 住吉博覧会・住吉区文化発表会・咲洲こども EXPOなどで、幼稚園のチアリーディングクラブの子ども達はパフォーマンスすることができ、発表の喜びと充実感を得ることができた。</p> <p>3. 隣接する小学校を中心に中学校との連携を図る。(小学校教諭による園での実地指導、中学生による職場体験等)コロナ感染防止対策として幼小音楽交流会・給食体験等は実施できなかった。</p>

<p style="text-align: center;">(評価不能)</p>	<p>4. 小学校の運動場・芝生のうえで、からだを思いっきり開放して、遊べる機会を意図的・計画的につくるようにする。小学校と芝生養生管理委員会の理解・協力の上、計画していたがコロナの感染予防のため中止せざるを得なかった。</p>
<p>保育環境の整備に努める。</p> <p style="text-align: center;">(B)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然とのふれあいの環境づくりを工夫する。(花壇、屋上菜園の充実等を図り、花や野菜に直接ふれる機会を通して、生命に目を向けさせるようにしてきたが、収穫の体験と喜び程度にとどまった。 2. 文化とのふれあいを鑑み、児童図書等の整備を図り、積極的な活用を促し、美しく丁寧なことばにふれる機会を多くもつようにした結果、「ありがとう」「ごめんね」の声がいろいろな場面で聞かれるようになった。 3. 屋上の芝生管理に勤めたが、遊び場としての活用にまで至らなかった。
<p>子育て支援活動の充実を図る。</p> <p style="text-align: center;">(B)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 未就園児を対象にした親子教室「ポッポちゃん教室」、「ピヨちゃん教室」「園庭開放」、子育てに関する何でも相談窓口「教育相談」の充実を努めてきた。その結果希望者の増加は見られたがコロナ感染予防対策のため縮小を図らざるを得なかった。 2. 特にニーズの高かった「ピヨちゃん教室(満3歳入園)」の取り組みは、未経験の分野であるだけに慎重に保育を行った。「土曜日の預かり保育」、放課後事業「のびのび教室」への参加も積極的に行うことができた。 3. 課外保育の「チアリーディング」「体操教室」「絵画教室」等の充実につとめたが制限せざるを得ない状況になった。チアリーディングはオンラインで動画配信するなど、中止することなく子どもたちの意欲・演技力アップに努めてきた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教職員一人ひとりが本園の保育方針を認識し、保育の充実を図る。

結 果	理 由
<p>教職員全体連絡会・研修会、事前連絡会、学年打ち合わせ会の充実を図り、保育方針の徹底に努めてきた。</p> <p>また、教職員の一人ひとりが事前計画、事後の反省を記録し提出することにより、次の行事、日々の保</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度は重点課題として、引き続き、子ども達、保護者、社会の実態・ニーズから「子ども達の社会性の育成」を最優先課題にとりあげ、「社会性の発達・育成」の場を日々の保育活動に意図的意識的に取り入れ実践してきた。その結果、人を思いやる・やさしい心が見られるようになってきた。 2. 当初、自分の居場所に不安が大きく、登園を渋っていた子ども達も担任や先生方からの優しい包容力と周りの子ども達

<p>育に生かせるよう配慮してきた。 その結果、教職員の技量(保育力)も高まり、自信を持って保育に向き合うようになってきた。</p> <p style="text-align: center;">(A)</p>	<p>の頑張り・優しさ・温もりにふれ、自分から友だちに声をかける等、明るく、たくましく活動できるようになってきた。</p> <p>3. 「できなかったこと」が、幼稚園で過ごす生活の中で、一つひとつ「できるようになってきたこと」が、子ども達の一番の楽しさ・喜び・うれしさであり、次への意欲・自信につながっていく。どの子ども成長が著しく幼稚園教育の醍醐味を実感することができた。</p> <p>4. 保護者間のふれあいもご近所のつながりから、園生活(学級・行事等)での子どもを通してのつながり、PTA活動を通してのつながりへと広がりを持つようになってきた。</p> <p>また、放課後支援事業の充実により、子ども達は年少・年中・年長という縦集団でのふれあい・協同活動を通してその時間を楽しみにする子が増えてきた。玄関ホールでの親子の会話も和やかであり、見ているほうも微笑ましい。</p>
<p>全員参加のPTA活動が計画的に行われ、保護者相互のふれあいが深まった結果、園運営においても大変スムーズで、親子ともども協力的で仲がよい関係である。</p> <p style="text-align: center;">(A)</p>	<p>1. 園の方針の徹底を図るには、教職員だけでなく保護者にどれだけ認識と協力が図れるかによる。そこで、保護者会、園行事への保護者参加、PTA活動の充実を図ることに努めた。保護者のネットワークの広がりや、時に批判に変わるという面も否めないが丁寧に関係を築いていきたい。</p> <p>2. PTA役員の続投が見られ、PTA行事等にかかる引継ぎが円滑・スムーズに運び、保護者間の雰囲気がとてもよかった。次年度もこうしたチームづくりをしていきたいと役員選出もスムーズに運んでいる。</p>

5. 今後取り組むべき内容

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み
<p>社会性を育てる場作りを進める。</p>	<p>今後は、放課後遊びの時間を月2時間設定することにより心身を開放して遊び、そこから生じる友だち間のトラブルに自ら考え、判断し、行動できるように、保育者は、見守り、支援していくことのできる場づくりの工夫をする。</p>
<p>朝ののびのび保育(預かり保育)の周知に努める。</p>	<p>預かり保育時間延長の要望が保護者よりあり、平成26年度より朝、夕刻それぞれ30分、前倒し、延長に踏み切ったが、朝の利用者が少ないのが実態である。次年度もさらに保護者の要望に耳を傾け、周知するようにする。</p>
<p>2歳児・3歳児教育の子ども達との交流をどのように考え、設定していくか検討する。</p>	<p>2歳児・3歳児教育では、お友だちといっしょに遊ぶことを目標に、遊ぶこと(3歳児教育、年少組の保育内容につながるウォーミングアップ的な活動)の楽しさを実感できるようにしてきている。そのなかで一緒に活動する友だちへの意識も芽生え、共に行動することも見られるようになってきた。</p>

今後は、子ども達の発達段階と実態を勘案して、園内における日常的なふれあい・交流を考えていきたい。

(その他)

教職員・保護者・園児への登降園管理システム、保育指導計画・実施報告のデジタル管理を充実させていきたい。